

今月の重点活動

■スマート農業 郡上市農業振興大会において普及活動成果を発表

12月4日、日本まん真ん中センターにて開催された「郡上市農業振興大会」において、農林業振興に関する高校生や各種団体の発表とともに、農林事務所がスマート農業や鳥獣害対策の取り組みについて成果発表並びにパネル展示を行った。

スマート農業については、農業普及課が「ひるがの高原だいこん」におけるロボットトラクター導入など現地での実証成果に加え、水稲におけるドローンを利用した防除作業の拡大といった市内におけるスマート農業の普及活動について成果を発表した。また、ロビーではスマート農業機械や活動成果パネルの展示を行った。

農業普及課では、今後とも関係機関と連携し、スマート農業の普及拡大に取り組むとともに、その成果について広くPRを進める。



【振興大会にて
活動成果発表】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏だいこん ひるがの高原だいこん生産出荷組合通常総会を開催

12月10日、「第49回ひるがの高原だいこん生産出荷組合通常総会」が県、市、市場関係者など来賓を招き開催された。

総会では、今年度の事業成果として種苗会社と連携した栽培試験や流通販売業者との販売調整活動、ほ場や沈砂池における土壌流出対策などの取り組みが報告された。

また、次年度の事業計画では、これまでの事業に加え新たに生産費削減のための取り組みや「ぎふ清流GAP」の更なる普及、組合設立50周年記念大会に向けた準備委員会の発足などが提案され、これらの活動計画及び予算案などが承認された。

農業普及課では、夏だいこんの産地出荷量の維持、増大に向け、今後も生産組合の活動を支援する。



【組合員による
ほ場での土壌流出対策】

■水稲 郡上産米ブランド化研究会の研修会を開催

12月23日、郡上総合庁舎にて郡上産米ブランド化研究会による栽培研修会が開催された。

研修会では、はじめに第7回郡上おいしい米コンテスト最優秀賞者で会員でもある明宝地区の和田清正氏から、鶏糞ペレットを5年前から施用していることや、水田の中干しをしっかりと行うことなど食味向上のための栽培管理について話を聞いた。

その後、農業普及課からコンテストの分析結果や堆肥を連用する際のポイントなどの情報を提供し、続いて市の農業アドバイザーからは次年度産に向けた施肥体系の提案などがされた。

この研究会は、平成28年の発足時より郡上産米のブランド化に向けて会員相互の技術向上のための視察や研修会を実施しており、農業普及課では、市内だけでなく全国規模のコンクール入賞も目指して引き続き支援を行う。



【米のブランド化に向け
研修会を開催】

■夏秋トマト 夏秋トマト部会販売が実績検討会を開催

12月16日、郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会が販売実績検討会を開催し、今年度の販売実績を振り返るとともに出荷成績が優秀な部会員の表彰を行った。

表彰では、最も成績の良かった者に贈られる郡上農林事務所長賞を13t以上の単収を上げた部会員が受賞したほか、夏秋トマト部会長賞は「郡上トマトの学校」を卒業して就農1年目で10t以上の単収を上げた新規就農者が受賞した。表彰後には、受賞者から収量を上げるためのポイントとして「作業を遅らせない」「無駄な作業をしない」などのコメントがあり、参加者も参考としていた。

販売実績検討では、昨年以上の収量を確保できたものの、8月の長雨と日照不足により後半の秀品率や出荷量の低下し、近年の異常気象にどのように対応するかが話題となった。

最後に農業普及課から、作型の組み合わせで収量を安定させる技術の普及など新たな提案を行い、検討会は終了した。



【実績検討会で、表彰される部会員】

■郡上八幡南天生産組合 今年度の南天出荷を終了

12月13日、郡上八幡南天生産組合が今年度の出荷を終了した。

今年は、開花期の長雨により100年に1度ともいわれる凶作に見舞われた昨年よりも良かったものの、7月の長雨の影響で当初の出荷計画を下回る結果となった。

それでも年末の需要期に向け、関西市場を中心に10tを超える出荷にこぎつけることができ、「全国有数の産地として、何とか面目を保つことができた」と関係者からは安堵の声が聞かれた。

郡上八幡南天生産組合では、コロナ禍により2年連続して見合わせた南天まつりの再開を目指しており、農業普及課としても産地活性化に向け、栽培技術とともに開催に向けた支援を行う。



【出荷を待つ郡上南天】